

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400228		
法人名	社会福祉法人 実寿穂会		
事業所名	グループホーム ポート野芥		
所在地	福岡市早良区野芥八丁目7番1号		
自己評価作成日	平成30年11月12日	評価結果確定日	平成31年2月4日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

入居者の好きなことが出来、やりがいを持つことで楽しい時間を一緒に見つけていく中で、お思いを知り、楽しく出来ること・楽しくやりたいことを一緒に過ごす中、毎日に目的があり生き生きと楽しむ事で、笑顔にあふれ充実した毎日を過ごす。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	平成30年12月25日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ポート野芥」は平屋建ての2ユニット事業所で、早良区野芥校区の住宅街の一角にある。母体法人は福岡・長崎で複数の介護事業を展開、近隣にも系列のグループホームや特養などがあり、会議や研修を合同で行うなどの交流がある。当事業所については平成27年7月に開設したが、1年前に「今を生きる」という理念に変更、入居者が一日一日を、目標や生きがいを持って楽しく過ごすことを念頭に日常のケアにあたっている。新しい理念のもと、独自にて個別に作成する「24時間暮らしのシート」や、月ごとに生活の目標を定めてその達成を目指す「夢実現」のプロジェクトなど、その人なりの思いや意向、希望、そして現実とを考慮して、生活の充実を図っている。職員も研修などを通してレベルアップをめざしながら、立場や役割をよく理解して認識を共有、今後も地域の認知症を支える事業所として一丸となって取り組んでいる。これからも大いに期待できる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念である「今を生きる」を基本に、各ユニットごとに目標を設けている。施設理念は事務所の目の触れやすい場所に掲示しユニット会議などで共有し実践している	事業所独自の「24時間暮らしのシート」の活用が効果的である事もあって、1年前に「今を生きる」という新しい理念と其中で目指していく役割を改めて掲げた。日常的な支援にとどまらず、「夢実現」など新しいプロジェクトの基盤になっており、職員にも十分浸透している。理念は事務所に掲示されており、理念を共有することでケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事、公民館で行われる教室に定期的に参加し交流を行っている 公民館のサークル活動に、入居者が参加をしている。	事業所が開催する敬老会や夏祭りには地域の方も招き、また餅つきなどの地域の行事には入居者も参加する。地域文化祭に入居者の作品を出品しているのも地域の協力のおかげ、と話す。ボランティア(漫談や音楽演奏など)や、介護実習などの受入、子供会との交流なども行われている。公民館でのキャラバンメイトの講師の受託も行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に来て頂くだけでなく、催し物を通じて、認知症の方と触れ合う機会を作っている。今年度から、サークル活動を入居者の方に参加していただき、地域の方に、温かい対応していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を開き、入居者の状況やサービス提供などの事業報告を行っている 家族、地域の方の情報交換できるようにしている	2ヶ月に1回の開催は軌道に乗っている。自治会長、公民館長、市役所・包括職員、薬局、他事業所などの他、入居者家族の参加もある。入居者やサービスの状況を説明するにとどまらず、様々な立場からの提案や意見を交換、情報を共有することで、サービスの向上につなげようと努めている。	家族は関心があり、出席はできなくても職員と話をすることで情報の共有はできているが、さらに充実を図って、会議に加わっていただくための日程調整などの工夫に加え、現状では行っていない議事録の送付なども、今後検討してみても良いのではないかと。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加は無いため、運営推進会議議事録や広報誌を送付し現状把握してもらっている	報告書類の提出、困難事例の相談、入居申込に対する対応などで、かかわりがある。介護保険の認定更新を郵送で行う事になって訪問の頻度が減った事情もあって、訪問の際には広報誌を届けるなど、積極的にコミュニケーションをとって協力体制を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	お部屋の鍵を持ちたい入居者の方に、鍵を持って頂いている。 玄関は、日中常に開けている。	身体拘束については、肉体的・精神的虐待やスピーチロックも含めて、外部研修やユニット会議の勉強会などで学習していて、拘束のない生活の実践に努めている。玄関は、片方のユニットは開錠も可能な電子ロック式の扉、もう片方は施錠なし(開けっ放し)の状況で、「散歩(職員は「徘徊」とは捉えていない)」に出る際も含めて、職員のさりげない注意のもとで穏やかに過ごす事ができている。	

H30.12自己・外部評価表(ポート 野芥)1.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	計画作成担当者に、事故ならびにリスクマネジメント研修を行い。計画作成担当者による、OJTにより職員に伝えていっている。 職員は「虐待の防止について」の外部研修に参加、ユニット会議で伝達講習を行い虐待が見過ごせられないよう防止に努めている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度の内部研修に参加 今のところ制度の必要性のある方は居ないが今後、機会がある時は活用できるように支援していく	成年後見制度利用者が1名いるが、現在それ以上の必要性はないと判断しており、管理者が外部の研修に出席して職員にフィードバックするとともにパンフレットなどの常備はしていないが、今後必要が生じた際に適切な説明や対応ができるような体制は整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居しおりを作成しており、契約時に説明を行っている 契約時は重要事項説明し了承を得たうえで契約している また制度改正がある場合などは再度説明し同意を得るようにする		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している 日頃から家族の方には入居者の状況報告を密にしご意見や要望を伺うよう努めている 顧客満足度のアンケートを実施している	年1回独自の満足度アンケートを行っている。投函はないが意見箱は設置している。家族会はないが、家族の訪問、面会は多く、その都度家族同士で互いに話をしている場面もある。職員は本人や家族の思い、希望を日頃から積極的に聞いて、定期的にそれを目標とし、その夢を実現しようと努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	同法人の全体会議に職員が出席し意見や提案を述べる機会を与えている	全体会議、ユニット会議、カンファレンスなどの定期開催時にこだわらず、入居者本位の取り組みに繋がるだろうと思われる事は、タイムリーに改善につなげている。幹部職員への話しやすい雰囲気、環境にあり、また提案された側も結論に時間をかけないようにしている。管理者との個別面談も随時なされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が年間目標を設定し半年に1度面談を行い達成状況や勤務状況の確認を行い働きやすい職場環境に努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	20代から70代の職員が働いており、男女の区別なく雇用 面接で、介護の関わり方、考え方、向上心等を考慮して採用している。個人目標を立ててもらい目標に向けて働けるよう、アドバイスや研修への参加を促進している	20～70歳代の職員が、それぞれの資質や能力を發揮して活躍している。男性職員の比率も高く、職員の層が厚い事で、入居者が安心してコミュニケーションができ、不穩にさせない事に繋がっていると自負している。職員の休憩時間・休憩場所の確保、研修会や勉強会への参加や資格取得にも理解がある中で、職員はメリハリのある勤務ができている。	

H30.12自己・外部評価表(ポート 野芥)1.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	公民館で行われた人権学習に参加、人権にかかわる虐待等の外部研修を受講、人権啓発活動のビデオを見て勉強している	一人一人の尊厳について、外部での人権学習に参加した職員が事業所内にて他職員に対してフィードバックをしている。また法人の作成したVTRでの内部研修も行って、認識を深めている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の目標を設定し、個々の能力に応じ、互いに確認出来るようにチェック表を作成している。必要と思われる外部研修の受講や法人での研修を積極的に行い、向上を図っている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設のポート賀茂の管理者・計画作成担当者に相互訪問などを行い。お互いに質の向上について相談を行っている。 グループホームのネットワークに参加し意見交換や交流の場となっている 他事業所のグループホームの運営推進会議に職員が参加している		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「本人の思い」を確認するために、24時間暮らしの情報シートを家族に記入していただいている。施設にはいっても、暮らしの継続が出来るように、入居前に訪問調査、情報収集を行いご本人の要望に対応できるよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、可能な方はご本人にも見学に来ていただき事前に楽しみや要望を聞きよりよい「本人の思い」をサービスに繋がるよう取り組んでいる。 契約前のオリエンテーションで、ご家族とのコミュニケーションをとり関係作りに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いを根拠にし、家族と施設がチームになり、入居者の未来が幸せな事を考え、今必要と思われるサービスを提案していつている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の暮らしの継続の中で、「共に暮らす」という意識から、本人の役割を持ち、得意な事や楽しみを、教え合ったり励ましあったりしながら、生活を共にし信頼関係を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを根拠に、ご家族との気持ちに寄り添い意向を聞きながら、ご本人を中心としたチームとして良い関係が築けるように心がけている		

H30.12自己・外部評価表(ポート 野芥)1.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の思いを叶えられるように夢実現として、馴染み場所や、行ってみたいところへ訪問出来るようにしている 他の入居者のご家族との交流や、馴染みの美容室に行かれたり、かかりつけ医の受診では、待合室で近所の方と近況報告をされている	本人や家族からの聴取により、入居者それぞれの「夢」を掲げ、それに向けて実現を図る。墓参りや買物、名所に行く、行事に参加するとか、「卵かけご飯を食べる」といった、1ヶ月程度で達成できそうな事を、これまでのつながりや関係を途切れさせない事も念頭に、職員や家族も協力して進めていく。良い刺激にもなっており、今後も継続の方向。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が会話できるよう職員が介入 また、編み物や洗濯物たたみ等をできる方は、一緒に職員としながら支え合える環境作りをしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族へ連絡をして様子を聞くなどをしている		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、24時間暮らしの情報シートを使い、ご家族へアンケート調査を行っており、その情報をもとに今までの暮らしと変わりがないように努めている	独自作成の「24時間暮らしのシート」を使用している。生活のリズムはそれぞれ違う事から、入居前には本人や家族より聴き取り、入居者ごとの時系列での過ごし方について、思いや意向、できる事などを分析のうえで膨らめて、シートを作成する、それに基づき、能力を生かしたケアの実践に職員が一丸となって取り組んでいる。個々のペースでの生活の把握に役立っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしの継続を知るために「24時間暮らしの情報シート」と「嗜好調査」で情報を集め、それを、自宅といったときと同じ時間の流れを、日々の暮らしの中に取り入れ生活を送れるようにしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが個々のペースで生活できるように支援している また、入居者の表情や言動を注意し現状の把握に努めるようにしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や申し送り等で出た意見を検討しそれをもとに、24時間シートに反映、更新を行い現状にあったケアができるようにしている	入居者を担当制として、24時間シートの作成(変更時には手書きでシートの修正を行うなど、随時見直しを行う)の他、状況報告などを行い、それをもとにケアマネジャーが介護計画を見直し(年1回の長期計画、半年ごとの短期計画)、月1回モニタリングを行う。目標達成のための評価は職員が共有している。	

H30.12自己・外部評価表(ポート 野芥)1.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入 気づきがあれば申し送りノートに記入し職員同士で話し合い情報を共有している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調や状況に応じて食事の形態を変更している。好きな物を提供しており、その時に合った食べる楽しみの提供を行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお店でコーヒーやランチに出掛けたり、行事や公民館サークル活動に参加を行い楽しむ機会を支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続でご家族と受診をされる方 ご家族の希望により提携の訪問診療、訪問歯科を契約 日常の様子や体調を提携のクリニックへ報告し連携を図っている	認知症に理解のある精神科の提携医による訪問診療のスタイルを事業所は勧めている。入居時にそれまでの主治医からの切り替えをされる方が殆どだが、別途必要に応じて外部の医療機関への通院を行う事もあり、その際には家族が行うのが基本だが、事業所が支援する事もある。家族との連絡は密になされており、安心につながっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携のクリニックの看護師や訪問看護師と電話やFAXで相談や助言をいただいている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、情報提供を行い医療機関と情報を共有している。入院中の本人の不安を少しでも軽減できるように、スタッフ、管理者がお見舞い行くようにしている。状況を見ながら、ドクター・ソーシャルワーカーと退院を含め今後の方向性について、話し合っている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明と提案をしている 今後の方針としてご本人にとって最適な方法をご家族と一緒に考え、主治医と連携を密にとっていく	事業所として、医師と連携してできる限りの支援を行うという指針があり、職員はその認識を共有している。その旨入居の際に家族にも説明をしているが、現実に重度化・終末期を迎えた際に再度確認をとる。これまでに1名の看取りを行っている。必要に応じて研修を行っている。	

H30.12自己・外部評価表(ポート 野芥)1.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており職員の目に付くところに張り出し、直ぐに対応できるように周知徹底をしている。職員に応急手当普及員講習修了者が居るので、定期的にAEDの使用の訓練を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し総合防災訓練を日中、夜間想定で年2回行う 消防職員立ち会いのもと通報装置の取扱いや水消火器訓練を実施 また定期的に防災委員会を開催している 災害時の備蓄品を備えている	年2回防災訓練を行っている(消防署の立会い、夜間想定訓練やADE利用による救命訓練、近隣住民の参加あり)。災害マニュアルは整備されているうえ、地域ぐるみの災害対策として自治会長らの助言もある。備蓄物の確保もなされている。	
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを尊重し、さりげない声かけ、言葉かけをプライドを傷つけないように心がけている プライバシーの確保に注意し、記録などの個人情報の取り扱いの徹底に努めている 家族に日常の状況報告の際は、別室にて行う	接遇マニュアルが整備されており、それに基づいた研修も随時行われている。入居者によって、失礼にあたらないように配慮しながらも、親しみを込めて「ちゃん付け」での呼ぶのも良しとしている。人格の尊重とプライバシー保護のために居室の鍵を持ってもらうようにするのに加え、目に入りやすい所は暖簾や観葉植物などをさりげなく利用している。写真利用については、書面で同意を得たものについてのみ使用している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に対して職員が聴き、日常の会話からできることや、やりたいことを自己決定できるように支援を行っている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床・朝食など入居者の状態に合わせて声かけ、しっかり覚醒してから食事を提供している 一人ひとりのペースに合わせたケアを行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える際は、声かけにてご本人に選んでいただく、整容に関しては髭剃りや化粧などを支援し、身だしなみに気をつけ、その人らしさが保てるようにしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、業者から納入している。入居者と職員と一緒に盛りつけや食器洗い、テーブル拭きなど一人ひとり出来ることを手伝っていただいている 食べたい物があるときは、外出支援として、食事に出かけたり、ご家族が持参されたりと食の楽しみを提供出来るよう心がけている	業者からの配食サービス(調理済み食材)を利用、ごはんのみユニットにて炊いている。日常的に、皿洗いや配下膳、お茶出しなどは入居者にお手伝いしていただいている。家族が外食にお連れする事もあるが、事業所としても、カレーやそうめんを作ったり、魚を焼いたり、また誕生日のケーキを作ったり、畑の作物を使ったり、と独自の工夫も織り交ぜている。	

H30.12自己・外部評価表(ポート 野芥)1.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録に残し、一日のトータルが解るようにしている 病状等により水分制限のある方は職員間で情報を共有し支援をしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア加算を算定している 訪問歯科医による口腔ケア講習を全職員受講し、入居者一人ひとり毎食後ご自身で歯磨きを行った後、職員が口腔内を確認し磨き残しがないようにしている。		
45	(19)	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者を提示に誘導するのではなく、本人の排泄パターンに合わせて声かけを行い、失敗や失禁が少なくなるよう支援をしている	24時間シートで行動パターンを把握しながら、バイタルや水分摂取量などと併せて排泄のチェックを記載して、職員は状況を共有している。担当職員からの改善を進めることで、おむつから布パンツに変更された事例もある。事業所には男性職員も多いが、プライバシーを確保して、排泄で嫌な思いをしないように配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善のための運動、水分量の確保、便通を良くする食事など工夫している 入浴時やベッド上で腹部のマッサージを行うなどして便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日程は決めてはいるが、入居者に伺い決定していただいている。夜間以外はお好きな時間に入っていただけるよう支援している。毎回、お湯を入れ替え、湯温や時間は入居者の希望に添えるようにしている。	浴槽脇には可動式ベンチ、壁面には手すりが施され、三方向から介助できる浴室が各ユニットにある。週2~3回のペースだが、希望があれば毎日でも夕食後でも対応は可。個浴で一回一回湯を捨てている。湯の温度や時間、シャンプーなどは本人の好みで決める。また皮膚観察などにも注意しながら、柚子湯・菖蒲湯を行うなど、入浴が楽しく安らぐひとときになるよう職員は配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24Hシートを活用し、自宅と同じような環境作り、生活習慣の持続が出来るよう心がけている 日中の活動状況に合わせ休息できる時間を支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携を取り、薬の一包化や錠剤が服用できない方は粉末にしている 薬の効能や副作用の注意点、薬の変更など職員間で共有し確認を行っている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの継続が出来るように、本人の意向好み・出来ることを支援している。本人の思いから「夢実現」につなげている		

H30.12自己・外部評価表(ポート 野芥)1.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話から入居者の思いをくみ取り、夢実現という形で一月に一度は買い物へ出かけたり食事やドライブに出かけている。玄関のしつらえを行い、ベンチなどを設置している。	「夢を実現する」という企画があり、月1回程度ごとに、「ここに行きたい」という入居者や家族の意向をくみ取り、個別の外出を行い、達成後はまた次の目標の実現を目指す。食事や買物、名所などが多い。加えて、近くの公園までの散歩やコンビニでの買物、ドライブ、地域行事への参加などを通して、積極的に外出の機会を作っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望があればお金を所持することが出来る。、買い物や外食の際、所持金より精算していただけるよう支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時の契約の際、ご家族との連絡の件を話し合い、入居者が家族とお話したいときは、電話をかけることが出来るように支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルの配置、リビングでくつろげる空間作りを行っている。季節の花を飾ったり、オルゴールや昔の名曲の音楽を流す際は音量に配慮している	平屋建てで左右対称に2ユニットが配置され、ホールは吹き抜け、中庭もあって、日当たりもよく開放感がある。各ユニットはそれぞれ「和モダン」と「洋風で緑のある空間」をコンセプトに作られており、その中で季節の花を生けるなど、季節を感じる事もできる。団欒のスペースを設けている事、居室の近くにトイレを多く配置している事で、メリハリのつく生活に繋がっている。臭いや音、温度にも職員は絶えず注意をしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を食堂、リビングと分けており、好きな空間で気の合った入居者同士話が出るよう椅子やソファを配置している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みのある物を持って来ていただきできる限り自宅に近い環境となるよう、ご家族に協力していただいている。暮らしやすいように入居者、ご家族と相談し部屋配置を考えている	フローリングの色調も明るめで、共有スペースと居室との一体感がある。電動ベッドと筆筒、エアコンが備え付けられた居室は広めで、テレビや冷蔵庫、自分の絵画作品、仏様などを自由に持ち込んでいる。各所室の表札は筆による手書きで飾られている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を中庭で干せるように設置している。入居者が洗濯物を干したり、乾いたのを確認でき取り込めるように支援している 全面に手すりを設置しバリアフリーとなっている		